

墨染め

墨染めで使う墨は「すみ」・「ぼく」・「もく」などと読みますが、文字の組み合わせからは黒い土と読み取れます。物を焼いた時に発生する煤を集めて墨を作るという技法が古くからあり、一説には中国古代が初まりとも云われています。一口に墨といっても、松を燃やした松煙からは青みを帯びた黒、菜種油煙からは赤みを帯びた黒と、原料によって微妙な色の違いがあり、さらに「墨は五彩を兼ねる」と云い、濃い方から焦・濃・重・淡・清の五階調を表す言葉もあります。

芸術においても、禅の思想と水墨画の普及により、色彩を捨て、墨一色だけの独立した技法が生まれ、黒は精神的に五彩、すなわち色彩であるという観念が出来上がりました。

今日でも墨色は、生活文化や美意識の心深くに溶け込んでいます。

一宮株式会社の墨染は、そんな古来からの伝統を大切にし、墨の持つ様々な表情を引き出しています。

味わいある「墨色」を存分にお楽しみください。

墨染めの色

墨染めは、煤の原料により、微妙な色味の黒を作り出すことができます。また、染めの濃度や染めの回数を変えることにより、無限の階調を表現できます。

さらに、柿渋など、他の染料と混ぜることにより、複雑な深みのある黒を演出します。



www.the.kyoto.jp